

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		一般小売店〔精肉〕（店長）	お客様の様子	・ギフトなどの動きをみると、生産者の認識できる松阪牛や能登牛などの銘柄牛が客の信頼も厚く、よく売れている。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・温度差はあるものの、どの納入先でも来客数が増加傾向にある。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客の買物傾向をみると、明らかにファッション志向の高いもの、なかでも「上質、時流」というキーワードの商材がよく動いている。今年のトレンドのブーツ、マフラー、コート関係などの動きも以前からみるとかなり活発になっており、食品、家庭用品においても相変わらず高額品の動きが良い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・農産物の相場安にもかかわらず、3か月前、前年比共に客単価が上昇し、確実に買上点数が増えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数の減少に歯止めがかかっている。飲料や書籍などは減少しているが、中食やフライドチキンなどがかなり伸びており、全体としては上向いている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・中旬以降の気温の低下に伴い、暖房機の販売量が前年を大幅に上回り、なかでも高単価のエアコンの動きが良い。また、好調な37インチ以上の薄型テレビが単価を押し上げ、販売台数の伸び以上に売上が増加した。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・車の販売受注台数は3か月前に比べ約15%増加している。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	販売量の動き	・競争激化のなかで、より消耗頻度の高い商品に焦点を当てた結果、既存店ベースで買上点数が前年比0.1点増加、売上も同5.6%増加という結果につながった。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・中京・北陸方面から日帰りの昼食客が増えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・婚礼宴会の実施件数は競合する会場が多すぎるため減少気味であるが、一般宴会、レストランウェディングの実施件数、宿泊客数は増加している。また、レストラン通常営業の来客数も引き続き増加している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の新サービスが始まり、多数の来店客の契約により販売量が増加している。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・9月以降、入場者数は徐々に増加し、前年を上回る状態になっている。	
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	お客様の様子	・例年であれば、クリスマスや正月の商材の動く時期であるが、今年は動きが鈍い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・当社だけではなく、競合店でもここ2、3か月にわたり前年の売上実績をクリアしている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気温の低下により、高価なコート、ジャケットなどの重衣料の動きが活発になったため前年に比べて単価は上昇した。しかし、売場により販売量の伸びに格差があるため、全体の売上では前年と変わらない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月の前半は気温が高かったため重衣料の動きが悪く、客単価が下がり、苦戦した。後半は若干寒くなったため、防寒衣料の動きが若干みられたものの、地方選挙が行われた影響もあり、客の購買マインドは依然低く、売上は前年の97%で終わった。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・11月に入り、衣料品の売上が伸びているが、まだ全体的な動きとはなっていない。また、来客数は増加している。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・気温が低下したため、冬物商材の販売が拡大し、客の買上率も向上した。
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・来客数は微増の状態が続いている。また、ハイウェイカードがなくなったせいもあり、客単価の低下傾向は変わらない。	

	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・衣料品の売上は順調に推移しているが、これは暖かい気温により伸び悩んだ10月の売上が、例年並みに寒くなった11月にずれ込んだためである。
	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・石油製品価格の高騰もあって自動車業界は足踏み状態である。なかでも高額車両が販売の中心であるディーラーは大変厳しい。県内の自動車業界は小型車店の健闘により、ようやく前年を若干下回る状態を維持している。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ステーキハウスでは売上、来客数共に例年より微増で推移しており、前年との比較では団体旅行客が増加している。和食店では昼の来客数は例年並みだが、夜の集客が激減している。特に10人以上での宴席が引き続き減っている。個人利用の単価は低下傾向にあるが、法人利用の単価は上昇している。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数、売上とも前年と比較してほとんど変化がない。ランチタイムは若干上向いているが、夜10時以降は若干落ち込んでいる。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・10月下旬に上海への定期便が就航したため、上海旅行の企画が盛んである。一方、国内旅行の取扱は前年より若干マイナスである。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・駅、空港、病院などの公共施設のタクシー待機場には入りきれないほどのタクシーがあふれている。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・大きなキャンペーンを行うことによりなんとか受注を確保しているが、割安感や特別のメリットがないと客からの注文が来ないという状況が続いている。
	住宅販売会社 (総務担当)	それ以外	・低価格商品は伸びているが、主力の中級・高級商品の伸びがいまひとつである。
やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕(店長)	来客数の動き	・年末に向かい、買い控えの傾向がみられ、来客数も減少傾向にある。
	スーパー(店長)	単価の動き	・今月は地元の大型ショッピングセンターが開店した影響から、各競合店ともに特別セールを展開し、競争が激化している。客も安い店で買いためをするため、単価が更に下がっている。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・売上は3か月前、前年同月との比較で減少している。食品はやや増加しているが、タオル、ノートなどの非食品が極端に悪い。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・景気の先行きや車の燃費、維持費などへの心配から、客の決断はますます鈍くなっている。この時期は車の代替の商談がほとんどであるが、低燃費、長寿命など経済的メリットがないと客は動かない。
	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・最近発売の小型車やハイブリッド車は受注が好調であるが、既販車の受注が思うように伸びず、総体として販売計画を下回っている。当社だけでなく、県内の市場もあまり良くない。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・駅前周辺で居酒屋が急増したため、2か月前から客の流れが変わり、当店の近くまで来る客が少なくなった。
	競輪場(職員)	単価の動き	・競輪の入場者数の減少傾向は今月も続いている。1人当たり売上単価も3か月前と比較して1.7%減少した。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・客の最終決定が慎重になってきているため、見積交渉に時間がかかり、結局は値引きにより利益率が低下している。
	悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き
企業動向関連	良く なっている	食料品製造業 (企画担当)	受注量や販売量の動き ・燃料費、材料費の高騰から商品の値上げと規格変更を実施したが、販売数量は増加傾向にある。
	やや良く なっている	電気機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き ・ほとんどが海外向けの製品であるが、受注量は増加傾向にある。
		建設業(総務担当)	取引先の様子 ・特に民間建築工事の見積依頼が増加しており、集中する場合は手に負えず辞退するケースもある。ただ、多忙な割には競争が依然し烈で、なかなか受注に結び付かない。
		輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き ・輸送単価は前年を下回っているが、物量は前年を上回っている。

変わらない	繊維工業（経営者）	競争相手の様子	・各社とも受注量の確保に苦労しているが、最近はずます期近受注が増え、生産面のロスにつながっている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量・販売量、受注価格・販売価格などの動きは変わらず、強気のまま推移している。
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・同業各社ともおおむね年末に向かって年末工期の工事が多忙になっており、下請業者も確保しにくい状況である。しかし、ダンピングまがいの過当競争や設計価格の低下により、引き続き採算性は悪い。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・上半期の企業業績は増収基調の取引先が多く、とりわけ製造業で冬季賞与資金が前年に比べて増加している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産登記の件数はそれなりにあるが、借換えや設定漏れの物件の追加設定などの案件が多い。
やや悪くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の眼鏡産地の仕事量は季節変動分を考慮しても落ち込んでいる。
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・高騰する軽油や、排ガス除去装置の装着などの経費が増加している。
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・周辺と同業者も含めて、仕事の動きも情報も止まっている。
雇用関連	良く なっている	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き
	職業安定所（職員）	来客数の動き	・有効求人倍率は前月に比べ0.1ポイント上昇の1.32となり、平成4年12月以降13年ぶりの最高水準となった。産業別でも、すべて前年比プラスとなっている。ただし、非正規型も上昇傾向にあることから本格的とはいえない面がある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・正社員以外の一時的、臨時的な求人が目立っている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿状況は前年同月比で15%以上減少している。内容としてはパートやアルバイトが伸びている。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前に比べ求人数が約20%減少している。特に正社員募集の減少が目立つ。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・業務の集中化を理由に、最大100人規模の企業整備が数社で続いている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・事業主都合による離職者が多くなっている。また、パート、派遣、請負など非正規型の求人や雇用は増えているものの、一方では正規雇用へのシフトを希望して退職する求職者も多くなっている。
悪くなっている	-	-	-